

資料3

東北医科薬科大学薬学部
改訂モデル・コアカリキュラム
実務実習説明会

本学の実務実習の 新運営体制について

日時：平成30年11月3日（土）

場所：東北医科薬科大学小松島キャンパス
70周年記念講堂

東北医科薬科大学薬学部

臨床薬剤学実習センター長 鈴木 常義

沿革(これまでに実施してきたこと)

H21年 9月	6年制第1期生 実務模擬実習開始
H22年 4月	6年制第1期生 長期実務実習開始 (実務実習運営委員会 設置)
H24年3月	6年制第1期生 卒業
H25年12月	(薬学教育モデル・コアカリキュラム H25年改訂版 発刊)
H26年 4月	評価方法の標準化／施設訪問方法の見直し(標準化)
H27年 2月	(薬学実務実習に関するガイドライン 発刊)
H27年 9月	4年次実務模擬実習にフィジカルアセスメントを導入
H28年 4月	実務実習運営委員会の改革(組織、役割の改定)。委員長:薬学部長
H29年 2月	H30年度 実務模擬実習 の概要と必要時間の決定(実務実習運営委員会)
H29年 4月	“実務実習の手引き”初版を発行
H29年 9月	次期Webシステムが富士ゼロックス社製に決定
H29年10月	H30年度 4年次シラバス確定 (4年次の実習と講義の有機的結び付け)
H30年 2月	“改訂モデル・コアカリキュラム実務実習に向けた説明会”の東北6県共同開催
H30年 5月	新webシステムトライアル／“先行導入実習” を実施
H30年 5月	実務模擬実習テキストの大規模改定 (16日分148頁⇒20日分204頁)
H30年 6月	前期実務模擬実習を開始 (前期4日間＋後期16日間)

新体制の主な変更点

- I. 実務実習運営委員会の見直し**
- II. 事前学習の内容の見直し**
- III. 実務実習運営体制の見直し**
- IV. 学生・実習施設・大学間の連携強化**
 - 実務模擬実習の学生自己評価の情報共有
 - 実務実習の学生自己評価の情報共有
 - 実務実習実施計画書の情報共有
 - 週報（振り返りレポート）の情報共有
 - 大学教職員による週報確認の徹底

I 実務実習運営委員会の見直し

実務実習運営委員会の改革(2016年4月)

	～2016年3月	2016年4月～
委員長	薬学部長が指名した教授	薬学部長
委員	各教室から1名ずつ (計：36名)	教務委員長、学生委員長 、臨床系教室教授、臨床系教員若干名、事務職員若干名 (当初9名⇒現在15名)
位置付け	連絡会議	実務実習検討事項の決定会議 (議事録は 学長決裁)
会議	1回/年	4～6回/年
下部組織	なし	実務実習連絡会議
設置目的	実習施設訪問の依頼・連絡	実務実習の円滑な運営と実習内容の質の確保及び向上

II 事前学習の内容の見直し

新カリキュラムにおける実務関連教科

1 年次前期

薬学入門
【新】

4 年次前期

薬剤系実習
(2週×2)
実務模擬実習 【新】
(1週×4)

4 年次後期

実務模擬実習
(4週×2)

3 年次前期

医療倫理
入門 【新】

薬剤師業務概論【改】
医療コミュニケーション論
調剤学

臨床薬学演習 I【改】
臨床薬学演習 II【改】

3 年次後期

製剤学

医薬品情報学
医療安全管理学【改】
医薬品安全性学【改】

地域医療
セルフマネジメント論
薬剤症候学【新】

実務模擬実習の見直し

旧カリキュラム

1日目	2日目	3日目	4日目
—	—	—	—
調剤 I (内外用剤の基本調剤)			
計数調剤	散剤調剤 <small>(錠剤粉碎含む)</small>	軟膏練り 調剤	シロップ 調剤
調剤 II (自動分包、注射調剤、その他)			
処方監査 調剤監査	注射剤の取り 揃え調剤・監査 薬剤鑑別	・機械分包 ・一包化調剤 ・調剤鑑査 システム	フイジカ アセスメント 投薬デバイス
無菌調製		無菌調製 見極め	
・ガウテック ・無菌調製の 基礎	・末梢用輸液調製 ・抗がん薬調製		
コミュニケーション			
・薬局での患者 応対	・病棟初回面談 ・来局者応対	・病棟服薬指導 ・薬局薬剤交付	・疑義照会 ・一般用薬情報 収集

新カリキュラム

1日目	2日目	3日目	4日目
基礎技能			
・処方監査 ・調剤監査 ・注射剤の取り 揃え調剤 配合変化	・機械分包 ・一包化調剤 ・調剤鑑査 システム	フイジカ アセスメント	投薬 デバイス
調剤 (内外用剤の調剤)			
計数調剤	散剤調剤 <small>(錠剤粉碎含む)</small>	軟膏練り 調剤	シロップ 調剤
無菌調製		無菌調製 見極め	
・ガウテック ・無菌調製の 基礎	・末梢用輸液調製 ・抗がん薬調製		
コミュニケーションA			調剤監査 薬剤鑑別
・薬局での患者 情報収集	・病棟での患者 情報収集	・在宅での患者 情報収集	
コミュニケーションB			
・薬局薬剤交付 ・一般用薬指導	・病棟での服薬 指導 A・B	・病棟インスリン 自己注射指導 薬局吸入剤指導	・薬局疑義照会 ・病院処方提案

前期
(6月)

後期
(9月～11月)

III 実務実習運営体制の見直し

従来の実務実習運営体制

運用：薬剤学教室教員（兼務）

窓口：教務課職員（兼務）

評価：実務系教員（兼務）

新しい実務実習運営体制

運営：実務実習運営委員会

運用：臨床薬剤学実習センター

窓口： // //

評価：実務系教員（兼務）

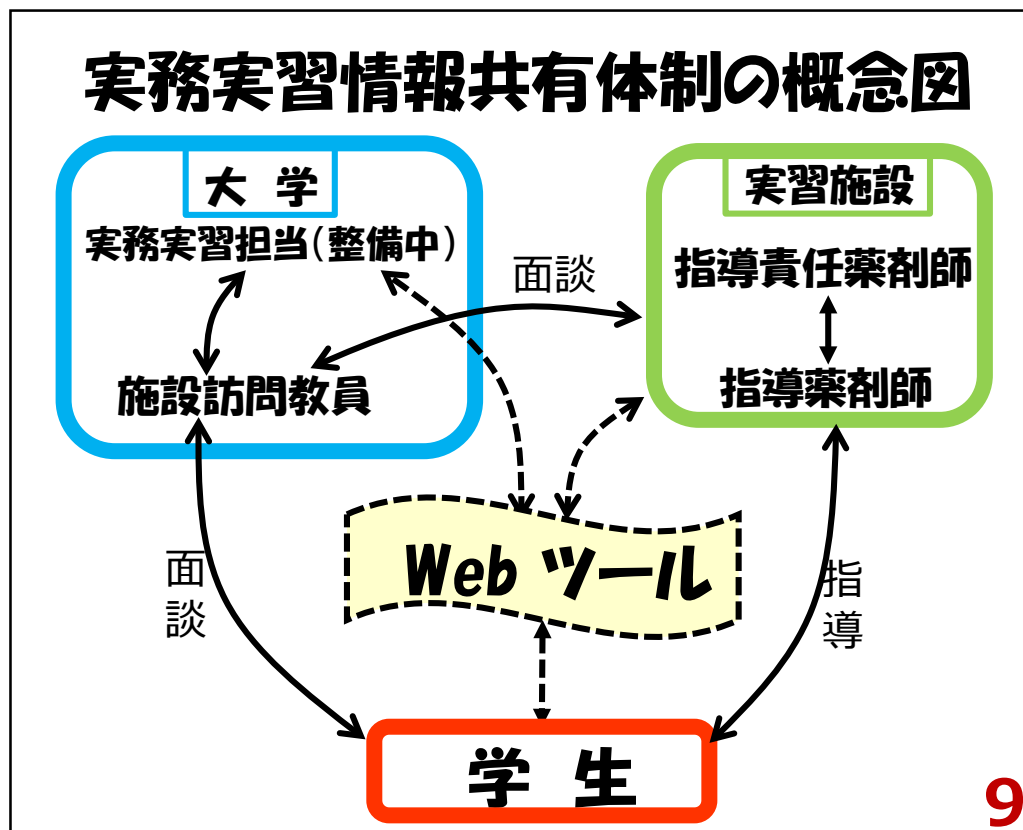
臨床薬剤学実習センター

- **実務実習に関する主な機能**
 - **窓口業務**
 - **運営本体**
 - **Webツールの管理・運営**
 - **実務実習運営委員会事務局**

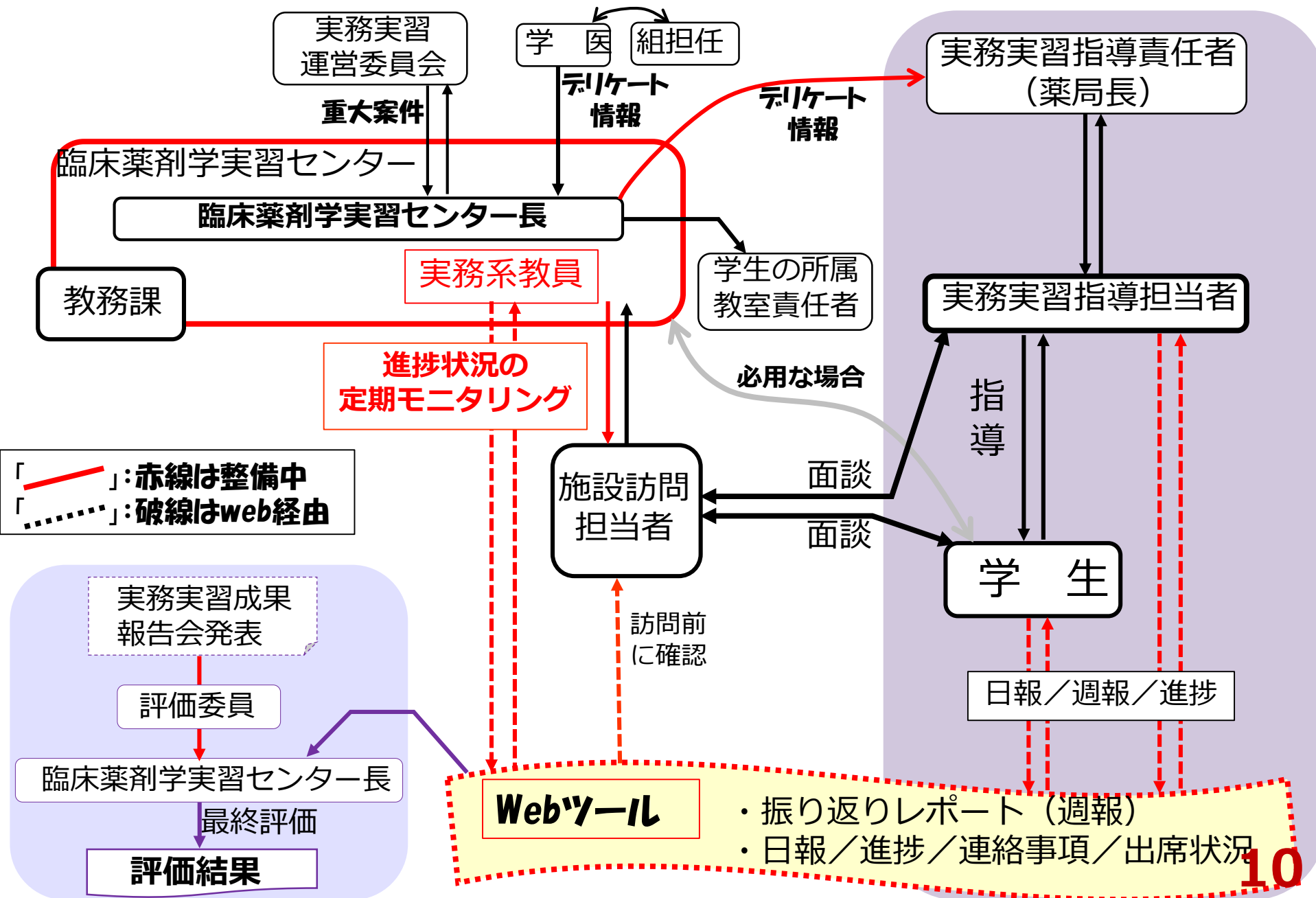
IV 学生・実習施設・大学間の連携強化

1. 大学教員による定期モニタリングの強化
 - ① 臨床系教員の実務実習担当の導入【整備中】
(個々の実習生に対する**担当実務系教員**の設置)
 - ② 施設訪問担当者と実務実習担当の情報共有体制の強化
 - ③ Webツールの活用
(運用法の標準化)

2. デリケートな問題の学生個人情報共有体制の確立
3. 東北地区調整機構との連携強化



実務実習の情報連携体制確立に向けての整備状況



実務模擬実習学生自己評価の運用

- ・ 実習での到達目標にどれだけ近づけたか自己確認
- ・ 自分の到達度を客観的に評価する
- ・ 毎日、実習終わりに到達度を評価し、日誌に記載
- ・ 実習最終日に「最終自己評価表」に記載し提出
- ・ 実習最終日には全項目レベル3となるよう努力

【態度・実習日誌】	⇒ 1	6 日間の評価
【コミュニケーション能力】	⇒	7 日間の評価
【調剤手技】	⇒	5 日間の評価
【無菌調整手技】	⇒	4 日間の評価

4年次実務模擬実習の習得状況の情報共有

学生の実務模擬実習自己評価表の情報共有

実務模擬実習最終自己評価表 (東北医科薬科大学薬学部)

4年組 番氏名

	番号	観点	到達目標	レベル3	レベル2	レベル1	レベル0	最終自己評価
				よくできる	できる	ある程度できる	できない	
態 度	1	身だしなみ	医療人として適切な服装・身だしなみをする	清潔感にあふれる服装・身だしなみをいつも心がけている	他者に不快感を与えない服装・身だしなみを心がけている	他者に不快感を与える服装・身だしなみであったが、指導者の注意により修正できる	他者に不快感を与える服装・身だしなみであり、注意を受けるが直らない	3
	2	挨拶	状況に応じた挨拶をすることができる	状況に応じた挨拶が自然にできる	自分から進んで挨拶ができる	挨拶された際に、挨拶を返すことができる	挨拶をしない	3
	3	実習への取り組み姿勢	目的意識をもって積極的に実習に取り組むことができる	本実習の目的を理解し、実務実習に向けて積極的に実習に取り組んでいる	実習に出席し、きちんと取り組んでいる	実習に出席するが取り組み姿勢が消極的である	無断欠席・遅刻をする	
	4	グループワーク	実習グループの一員として、協調性をもって実習を進めることができる	実習グループメンバーの個々の役割を理解し、グループの実習に貢献することができる	実習グループの他のメンバーと協調性をもって実習ができる	実習グループ内の自分の役割は果たすことができる	実習グループの他のメンバーと協力して実習ができない	12

実習 日誌	5	実習日誌・実習レポート等	実習内容を適切に記録することができる	右に加え、今後自分がどのように成長して行きたいかなど、将来に向けての目標や心構えについても記載している	右に加え、気づいたことや反省点など、実習で感じたことなども記載している	実習で実施した内容を記載している	実習日誌を記載しない、しても提出しない
	6	コミュニケーション能力	適切な態度で患者・来局者や他の医療スタッフと対応できる	医療人として信頼され得る態度で、患者・来局者や他の医療スタッフと対応できる	良好なコミュニケーションの取れる適切な態度で、患者・来局者や他の医療スタッフと対応できる	患者・来局者や他の医療スタッフに対して、不快感を与えない態度で対応することができる	患者・来局者や他の医療スタッフと対応する際に、不快感を与えてしまう
	7		患者から薬物治療に係る基本的な情報を収集し評価できる	コミュニケーションを通じて、患者の信頼を得ることで、薬物治療に係る必要な情報を収集し評価ができる	患者の病態や状況（高齢者、妊婦・授乳婦、小児等）に配慮し、薬物治療に係る必要な情報を収集し評価ができる	患者から薬物治療に係る基本的な情報（症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等）の収集ができる	患者から薬物治療に係る情報の収集ができない
8	医薬品を安全かつ有効に使用するために必要な、患者への情報提供および患者教育を実施できる		コミュニケーションを通じて、患者のニーズを判断しそれを盛り込んだ情報の提供および患者教育ができる	患者の理解度に合わせて、医薬品を安全かつ有効に使用するために必要な情報の提供および患者教育ができる	情報ツール（薬剤情報提供文書等）を用いて、医薬品を安全かつ有効に使用するために必要な情報の提供および患者教育ができる	医薬品を安全かつ有効に使用するために必要な情報の提供および患者教育が十分にできない	

技能	9	調剤手技	薬袋、薬札を適切に作成できる	薬袋、薬札に記載すべき事項を正確かつ丁寧に記載できる	薬袋、薬札に記載すべき事項を記載できる	-	薬袋、薬札に記載すべき事項を正しく記載できない	
	10		処方箋に従って、計数・計量調剤ができる	調剤過誤防止を意識しながら、手際よく正確に計数・計量調剤ができる	調剤過誤防止を意識しながら、計数・計量調剤ができる	計数・計量調剤の作業手順が実施できる	計数・計量調剤の作業手順を理解していない	
	11		処方箋に基づき、調剤された薬剤の監査ができる	一連の調剤監査の作業を手際よく正確に実施できる	右に加え、調剤薬の汚れ破損、期限切れ等に気づき指摘できる	調剤薬や薬袋、薬札に記載すべき事項に誤りがあれば指摘できる	調剤薬や薬袋、薬札に記載すべき事項に誤りがあっても気づかない	
	12	無菌調製手技	衛生的な手洗い、手指の消毒、手袋・ガウン・帽子・マスクの着脱を適切に実施できる	衛生面に配慮しながら、手洗い、手指の消毒、手袋・ガウン・帽子・マスクの着脱の作業を手際よく正確に実施できる	衛生面に配慮しながら、手洗い、手指の消毒、手袋・ガウン・帽子・マスクの着脱の作業ができる	手洗い、手指の消毒、手袋・ガウン・帽子・マスクの着脱の手順を実施できる	手洗い、手指の消毒、手袋・ガウン・帽子・マスクの着脱の手順を実施できない	
	13		注射処方箋に基づき、基本的な無菌調製が実施できる	衛生面に配慮しながら、基本的な無菌調製作業を手際よく正確に実施できる	衛生面に配慮しながら、基本的な無菌調製の作業ができる	基本的な無菌調製手順を実施できる	基本的な無菌調製手順を実施できない	
	14		抗悪性腫瘍薬などの取り扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる	衛生面に配慮しながら、ケミカルハザード回避の手技を手際よく正確に実施できる	衛生面に配慮しながら、ケミカルハザード回避の手技を実施できる	ケミカルハザード回避の手技を実施できる	ケミカルハザード回避の手技を実施できない	

実務実習実施計画書

- (1) 実習生に関する情報
- (2) 大学での実習状況
- (3) 実習の概要
- (4) 薬局と病院での実習内容の分担について
- (5) 大学、実習施設間での連絡事項とその伝達
(情報共有) 方法
- (6) 実習生評価方法
- (7) 大学、実習生から実習施設への要望

大学で
作成

- (8) 実習情報 (実習施設から提供された情報)
- (9) その他

薬局 実習スケジュール
病院 実習スケジュール

事前に大学
と施設で協
議して作成

ご清聴ありがとうございました。